



生活に欠かせない物価の値上げが止まりません。年内に値上げ予定品目は1万にも及び、値上げ幅は13%にもなるそうです。コロナ禍で大変なのに、生活は益々苦しくなるばかりです。

平和とくらしを まもる政治を!!

そんな中、ロシアのウクライナ侵略を利用して、不安を煽り軍事費を2倍にし、憲法9条を変え、核兵器配備まで主張する自民や維新は絶対認められません。

自治会の方との話

で、今の政治が「オカシイ」と感じている。知り合いと話す

と「あなたは共産党みたい」と言われた、

と。また、どうして国民は怒らないのか「フシギ」でしょうか、ない、とも。

共産党の「5つの提案」は、直ぐに実行したい内容です。
①消費税5%に緊急減税、インボイスは中止 ②中小企業を支援し「時給1500円」へ、大企業の内部留保に課税 ③年金削減ストップ、学費半額、給食費ゼロ ④原発ゼロ

はロシア、中国、北朝鮮と同じだとの攻撃がされています。が、全くの誤解です。横暴を一番厳しく批判してきたのが日本共産党なのです。間近に迫った7月の参院選挙。日本共産党が躍進するように、どうぞお力をお貸し下さい。

なんでも相談

- ・法律/年金/税金/仕事
- ・保育/学童/教育
- ・介護/家族等々

コロナ禍で困っていること、その他なんでも気軽に、ご連絡下さい。

高橋市議 090-6565-1749
akr-takahashi@jcom.zaq.ne.jp

2022.6 第221号

ニュース わかば

〈部内資料〉

発行責任者 安藤次子 TEL:090-6565-1749

日本共産党流山
東部後援会

「指定ごみ袋…」署名にご協力を!

指定ごみ袋制度が導入されて2カ月、ごみ集積所にはオレンジ色のシールが貼られた袋が、まだに残されています。

4月下旬、市から会に対して文書回答がありましたが、オレンジシール「周知シール」は周知徹底、制度を早く浸透させるためと、くり返し述べるだけで、なぜ「指定ごみ袋」なのかの根拠は示されていません。

クリーンセンターの資料によると、4月中に電話980件、貼ったシールは44,517枚、職員も業者も仕事が増大しました。

市民からは値段が高い、燃やす袋は使いたい大きさが品切れ、植栽用の大きい袋も必要、区別がつきにくいなど、たくさんの声が上がっています。

会が取り組んでいる署名に東部後援会としても賛同し、署名を集めることにしました。

ぜひご協力ください。ご連絡頂けば、取りに伺います。



カラスの被害で散乱したごみ集積所

7/10は参院選投票日



田村智子参院議員、さいとう和子元衆院議員を迎えて、柏駅東口での演説会が視聴できます。



2回投票します。
1回目「さいとう和子」
2回目「日本共産党」
とお書き下さい。

「ご協力をお願い」友人・知人に支持を広げるノポスターを貼るノチラシを配る など。



身近な要望実現

カーブミラー設置

『暮らしのアンケート』に寄せられた要望（生涯学習センター付近）

『暮らしのアンケート』に寄せられた要望（松ヶ丘ふるさと公園下）



道路の舗装



横断歩道の舗装



6号線の横断歩道の凸凹解消



歩道の舗装

パークハウス前歩道（向小金1丁目）



道路の舗装

道路の凸凹改善。更に地面舗装の要望も（長崎小付近）

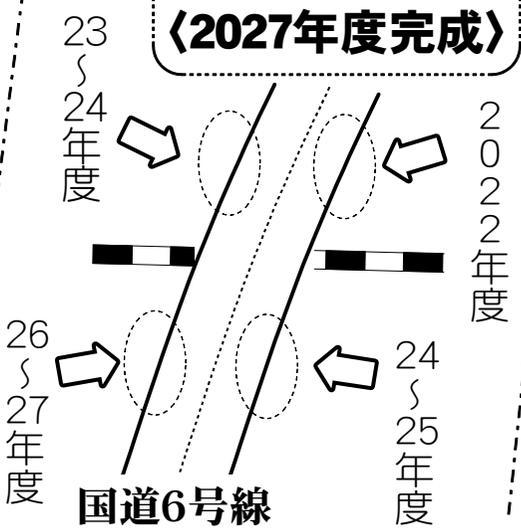
これからの改善日程

変則交差点の改良へ

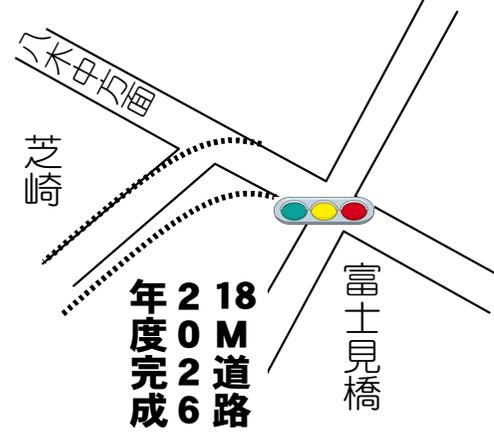


陳情書、1004筆の署名提出など、2015年から取り組んできた運動が実を結び、2023年度に実現します。

名都借跨線橋<2027年度完成>



動線変更・道路拡幅



2018年度完成

“あきら”のホッと

カン・ゲ・キで〜す!



エキチカ(南柏駅)に、8種類のクラフトビールが味わえるお店が開店しました。コロナ禍で控えていましたが、

久しぶりに出かけました。店内は10席位のカウンターで、若い人ばかり。ラガーやエールを飲み比べ、黄金の濃淡を味わいます。ホップのフルーティな爽やかさと共に、独特の苦味が堪りません。



映画紹介

「教育と愛国」

監督：齊加尚代 2022年 107分
柏キネマ旬報シアター 6/11~24

大阪毎日放送がギャラクシー賞大賞を受賞した『映像、17教育と愛国』教科書でいま何が起きているのか』に追加取材と再構成したドキュメンタリーです。同社で記者として20年以上教育現場を取材してきた齊加尚代監督が、教育と政治の關係に鋭くメスを入れます。

軍国主義の戦前の反省から、戦後の教育は常に政治とは一線を画してきましたが、この流れは今大きく変わります。2006年、安倍晋三政権下で教育基本法が改正され、「愛国心」が戦後復活しました。「教育改革」や「教育再生」の名のもとに、教科書検定制度は目に見えない力により、政治介入ともいえる状況の中で出版社と執筆者の攻防は、今も続いています。また慰安婦問題など加害の歴史を教える教師や大学の研究者へのバッシング、さらには日本学術会議任命拒否問題など、最新の教育事情を描いています。

(映画プロデューサー 北村真平)